

耳鼻咽喉科研修カリキュラム

研修目標

1 一般目標

- 1) 耳鼻咽喉科の基本的診察法を習得する
- 2) 外来で頻度の高い疾患の診断と治療を研修する
- 3) 緊急を要する疾患の対処を理解する

2 行動目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的耳鼻咽喉科診療能力

1) 問診および病歴の記載

患者との間に良い信頼関係を保って問診を行い、問題解決志向型病歴によって耳鼻咽喉科的な問題を明らかにする。

2) 耳鼻咽喉科診察法

1. 視診（耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡による）
2. 内視鏡、顕微鏡を用いた診察

(2) 基本的耳鼻咽喉科臨床検査

耳鼻咽喉科診療に必要な検査を実施あるいは依頼し、結果を評価して患者・家族にわかりやすく説明できる。

1) 聴覚検査

- ・標準純音聴力検査
- ・チンパノメトリー

2) 平衡機能検査

- ・眼振検査

3) 内視鏡検査

- ・鼻内視鏡検査
- ・喉頭ファイバースコープ検査

4) 放射線学的検査

- ・X線検査
- ・CT
- ・MRI
- ・超音波検査

(3) 基本的治療法

薬物の作用、副作用、相互作用について理解した上で薬物治療ができる。

B 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 頻度の高い症状

- 1) 難聴
- 2) めまい
- 3) 鼻出血

- 4) 咽頭痛
- 5) 嚔声
- 6) 頸部腫瘍

これらの症状を呈する耳鼻咽喉科疾患には以下のようなものがある。

中・内耳障害、急性鼻副鼻腔疾患、急性咽喉頭疾患、頭頸部悪性腫瘍

(2) 緊急を要する症状・病態

以下の疾患は呼吸困難から窒息の可能性のある

- 1) 急性感染症（扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎など）
- 2) 誤嚥による気道異物

(3) 経験が求められる疾患・病態

- 1) 急性・慢性中耳炎の診断と治療
- 2) 急性・慢性副鼻腔炎の診断と治療
- 3) アレルギー性鼻炎の診断と治療
- 4) 急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍の診断と治療
- 5) 外耳道・鼻腔・咽頭・食道の異物の診断と治療

C 耳鼻咽喉科研修項目の経験優先順位

経験優先順位第一位（最優先）項目

- ・耳・鼻・喉頭鏡による局所の診察ができる
- ・内視鏡を用いた診察ができる

経験優先順位第二位項目

- ・急性中耳炎の診断
- ・難聴の鑑別と診断
- ・めまいの基本的診断法
- ・副鼻腔炎の診断
- ・鼻出血の止血法

経験優先順位第三位項目

- ・手術があれば助手を務める

研修方略

研修スケジュール

病棟・外来におけるオリエンテーション後、指導医のもと週間スケジュールに沿って研修する。

【週間スケジュール表】

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	特殊外来	外来	外来
午後	病棟	手術	病棟（手術）	病棟	病棟

研修評価

研修評価は、研修修了時（～その 1 ヶ月以内）担当指導医が、EPOC-オンライン評価システムにて評価する。最終評価は、まつもと医療センター病院群臨床研修管理委員会での委員会規定に基づいて行う。

< 指導医 >

後藤昭信 昭和 57 年卒 日本耳鼻咽喉科専門医